

アジア女性基金について

財団法人女性のためのアジア平和国民基金は、元「慰安婦」の方々への国民的償いを行うこと、女性の名誉と尊厳に関わる今日的な問題の解決に取り組むことを目的として、1995年7月に発足いたしました。以来、政府と国民の協力によって具体的な事業を実施してまいりました。「慰安婦」とは、かつての戦争の時代に、日本軍によって慰安所で将兵に性的行為を強いられた女性たちのことです。この問題は、女性の名誉と尊厳を深く傷つけ、心身にわたり癒しがたい苦痛を与えた出来事でした。

そのため、アジア女性基金では、1)元「慰安婦」の方々の苦痛を受けとめ心からの償いを示す事業として、国民の皆様のご協力を得た募金による「償い金」のお届け、2)国としての反省を表す日本国内閣総理大臣の「お詫びの手紙」、3)政府拠出金による医療・福祉支援事業を実施いたしました。この償い事業は、フィリピン、韓国、台湾において、285名の元「慰安婦」の方々に受け止めていただき、2002年9月末、終了いたしました。さらに医療・福祉支援を中心としたオランダでの事業は79名に対し実施され、2001年7月に終了し、インドネシアでの事業は2007年3月まで継続いたします。

他方、武力紛争下における女性の人権問題、国際的人身売買およびドメスティック・バイオレンス(夫や恋人からの暴力)など、女性や子どもに対する暴力や人権侵害によって苦しむ方々は今日でも後を絶ちません。

アジア女性基金では、過去の問題についての償いだけでなく、女性に対する暴力のない国際社会を築くため、国内外に女性の名誉と尊厳を守ることの重要性について啓発活動等、以下の活動にも積極的に取り組んでまいります。

- ◇女性に対する暴力のない社会をめざすための啓発活動
- ◇女性が直面している問題についての国際会議の開催
- ◇女性の人権問題に取り組んでいる団体などへの活動支援
- ◇女性に対する人権侵害などについての原因と防止に関する調査・研究
- ◇暴力被害を受けた女性に対する援助者を育成するための研修

財団法人 女性のためのアジア平和国民基金 (アジア女性基金)

〒102-0074 東京都千代田区九段南 2-7-6 相互九段南ビル4階
電話03-3514-4071 ファックス03-3514-4072
Home Page: <http://www.awf.or.jp> E-mail: dignity@awf.or.jp



財団法人
女性のためのアジア平和国民基金
(アジア女性基金)

あなたを暴力から守るために



人はだれでも、安全な環境で、自分の意思を大切にしながら生きる権利があります。しかし、世の中には他人の気持ちを無視して、一方的にイヤがることをしたり、傷つけたりする人がいます。こうした行為を、「暴力」と言います。

では、暴力とはどんなものなのでしょう？ この冊子では、中学・高校の女子生徒を取り巻く、身近にあるさまざまな暴力や被害による影響、その対処のしかたを紹介します。皆さんが大切な自分自身を守るために、親や先生など周囲の大人も一緒に考えていきましょう。

目次

あなたはだいじょうぶ？	P.4
●こんなことってないかな？	P.6
お父さんかいばってばかり。家に帰りたくない！	P.6
お母さん、私のこと嫌いなの？	P.8
電車でちかんにあっちゃった！	P.10
おそわれたなんて、だれにも話せない	P.12
カレシのお願い、ほんとは私、イヤなんだ	P.14
出会い系サイトでだまされた！	P.16
●どうなってしまうのかな？	P.18
●どうすればいいのかな？	P.20
悩みを聞いてもらえる相談先	P.22

あなたはだいじょうぶ?

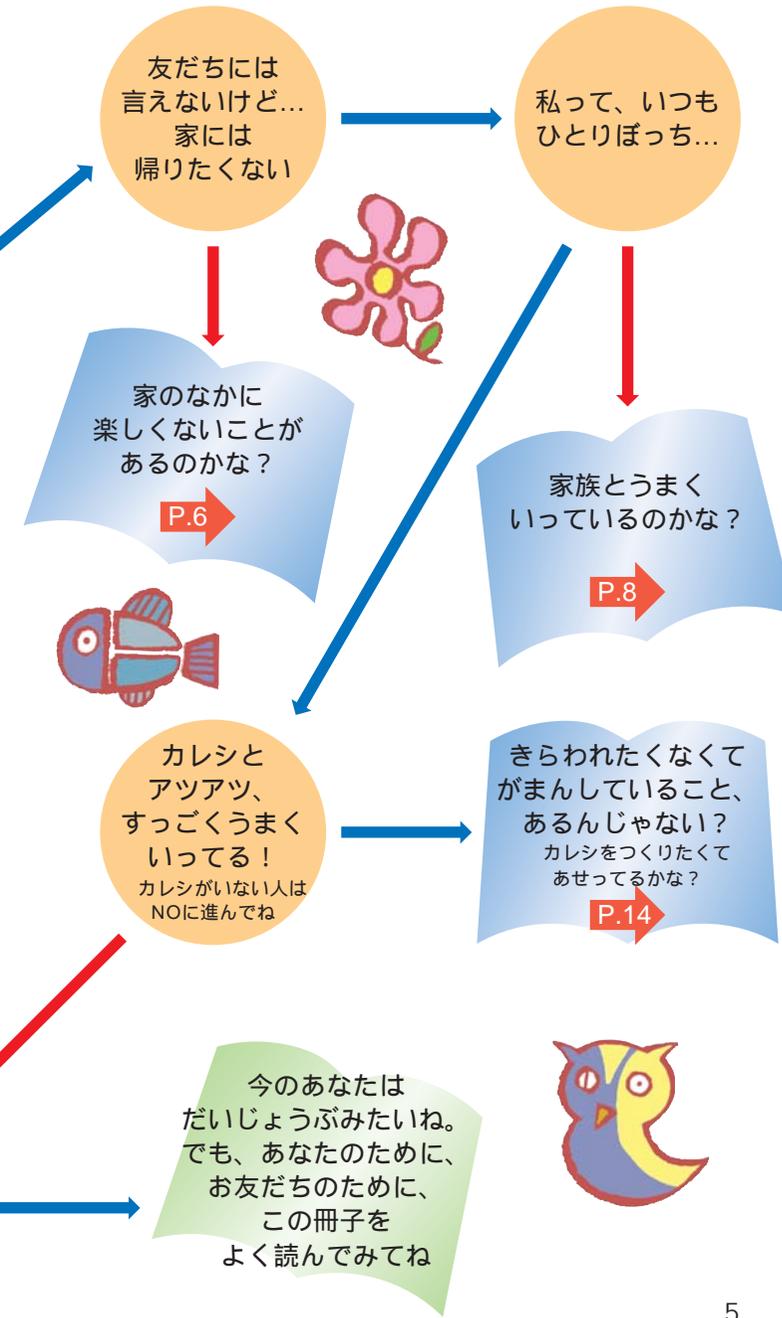
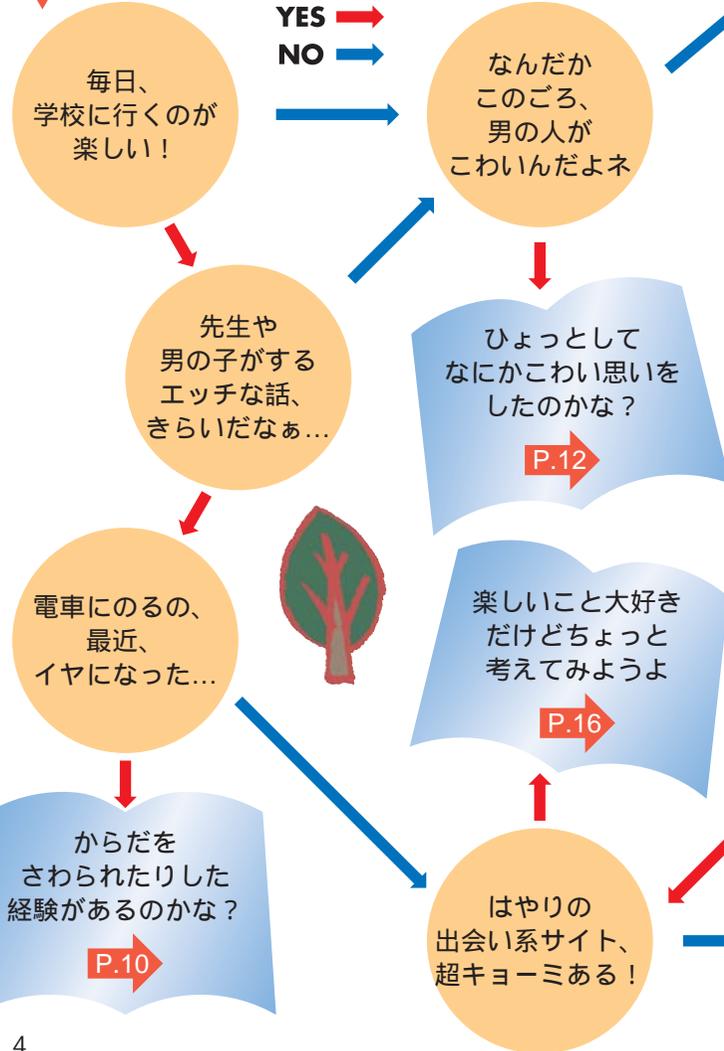


あなたは今、どうい生活をしているのかな?
 悩みは? 困ったことは? イヤなことは?
 ちょっと、チェックしてみませんか。

☆チェックしてって、あてはまるところに行きついたら、
 そのページを読んでみてね。さあ、スタート!

START

YES →
 NO →



こんなことってないかな？

暴力は、なぐったり、たたいたりすることだけではありません。身のまわりにはいろいろな暴力があります。こんなことってないかな？

お父さんが いばってばかり。 家に帰りたくない！



覚えてみよう

暴力を目にするのも暴力

自分の両親が、とても仲がよかったら、それだけでハッピーな気分です。でも、けんかしたり、悪口を言ったり、なぐったり、口もきかなかったりしていたら、とても悲しい、とてもさびしい気分になるでしょう。家庭から笑い声が消え、会話がなくなって、一緒にいるのがツライ、帰りたくない場所になってしまうかもしれません。

これは、あなた自身のからだを傷つける暴力ではないけれども、あなたの心を傷つける、「暴力」のひとつです。

家族のだれかが暴力をふるっているなんて、人には言いにくいし、子どものあなたがそれをやめさせようとするのも、なかなかむずかしいもの。どうしようもないために、「私にはなにもできない」と感じる人もいます。

あなたたちは、
向こうへ
行って下さい…



母



祖母

おじいちゃんも
そうだったけどねえ。
アタシは耐えたよ

家に帰るのがイヤなマリエさん（仮名）。友だちにはまったく話してないけれど、お父さんがいばりちらして、家のなかには家族のだんらんもなければ、楽しい雰囲気もありません。お母さんに「メシ！」「フロ！」と命令し、「だれに食わせてもらってるんだ！」とどなったり、機嫌が悪いと手を上げることもしばしばです。家にいるのはツライし、ひとりぼっちだなと思うマリエさん。「お母さんもツライんだろうけど、でも私にはどうすることもできない」。お父さんのどなり声を聞くのも、沈んだお母さんの顔を見るのもイヤでたまりません。

うるせえなあ、
オレたちには
関係ねえヨ！



兄

マリエ

これじゃ、
うちに
帰ってくるの
イヤになる



家庭内の暴力が ひどかったら…

●児童相談所に相談しましょう。悩みを聞いてもらえ、いろいろなアドバイスが受けられます。家庭内の暴力を見ることが、不安な気持ちになったり、からだに不調が起きているなら、地域の保健所や精神保健福祉センターなどに、まず電話してみましょう。個人情報を守られます。親や先生に知られたくないときや、なにか心配なことがあるときは、それを相手に伝えるといいでしょう。

➡ P.22～23 参照

こんなことってないかな？

お母さん、 私のこと嫌いなの？



覚えてみよう

親だって子どもを傷つけていいはずがない

世の中には、ののしられたり、怒鳴られたり、言葉で傷つけられる暴力もあります。それが、親からだったら、子どもは深く傷つくでしょう。「親から嫌われている」と思いこんでしまうのも、当然です。

家庭はやすらぎがあって、ほっとできる場所のはず。それなのに、残念なことに、家庭のなかでも暴力が起こることがあります。親が子どもをなぐったり、暴れる家族がいたりすること

もあるでしょう。ときには、親やきょうだいから、からだをさわられたり、無理やりセックスを求められたりといった、性暴力を受けるケースもあります。もしあなたが、家族からこれらの暴力を受けていたら、そこは安心して暮らせる家ではなくなってしまいます。

だれかに相談したくても、肉親のことを話すのは、勇気がいるもの。だから、知り合いにはなかなか言えなかったりします。そのぶん、苦しいし、ツラ

おまえが、
またなんか
悪いこと
したんだろう



父



あーあ、
あんた要領が
悪いからよ

姉

お母さんに、イヤな言葉をかけられてばかりいるジュンコさん(仮名)。悪いことをしているわけではないのに、お母さんはすぐイヤミを言います。「おまえは役立たずだから」「お姉ちゃんはデキがいいのに」「生まなきゃよかった」……。 「ほんとうに私はだめなのかな」と悩んでいますが、「こんなこと、友だちにはとても言えない」。お父さんはまったく味方してくれないし、きょうだいは知らん顔。私はお母さんに嫌われてるの？ 自分では気がつかないけど、なにか悪いところがあったの？

ねえちゃん、
タセエ
からなあ

弟



ジュンコ

……私なんか、
いないほうが
いいんだ

いい、心はいつも重いでしょう。

親から暴力を受けていると、「いい子じゃなかったから、こういう目にあうんだ」と自分が悪いように感じた人、「だれからも愛されていない」と自分が価値のない人間に思えたり。ほかの家族が助けてくれないければ、ひとりぼっちだと感じて、「自分はいないほうがいいんだ」と思ってしまうかもしれません。

でも、あなたに責任があるわけじゃない。自分が悪いのだと、思わなくていいのです。親だからといって、子どもの心もからだも、傷つけていいはずがありません。

家族から暴力を受けたら…

●児童相談所に相談してみよう。子どものあなたの話でも、専門家がきちんと相談のつてくれます。名前を言わずに、電話で相談するのでもだいじょうぶ。

➡ P.22～23 参照

こんなことってないかな？

電車でちかんにあっちゃった!



覚えてみよう

ちかんも暴力のひとつです

ちかんが現われるのは、電車のなかだけではありません。通学途中の道やエレベーター、ショッピングセンター、本屋、映画館などで、通りすがりにからだをさわられた経験がある人もいることでしょう。勝手に自分のからだをさわられたらとても気分が悪い、してほしくないことをされたらイヤなのは、だれでも同じです。どんな人も、ほかの人に好き

なようにからだをさわられていいはずがありません。「ちかんなんて、たいしたことじゃない」と言う人もいます。『かわいいから、ちかんにあつたんだ』と思う人もいるかもしれませんが、あなたの気もちに関係なくさわられるのは、暴力のひとつ。あなたは、自分のしてほしくないことを「イヤだ」と思っているのです。



おまえが、そんな短いスカートをはいてるからだ!

父



母

私なんて、もうちかんにもあわないわ

電車のなかで、おしりのあたりに何かモゾモゾするのを感じたサチコさん(仮名)「えっ、もしかして……ちかん!?」間違っていると困るから、声も出せないし。でも、スカートの下から手が伸びてきて、やっぱりちかんだと思ったときには、あまりの気もち悪さに言葉が出ず、からだが固くなって何もできませんでした。思いきって相談したのに、家族は「たいしたことじゃない」と、まったくとりあってくれません。



だれがオバサンをさわるかよ〜

兄

サチコ

エ〜、私はすごくイヤだったのに…



もしも、ちかんにあつたら…

「やめて」と声を上げたり、足を踏むなどして、ちかんが驚いて、手を出すのをやめるようにしむけましょう。次の駅で降りるのも手。

被害にあったことを駅事務室、警察署などに届け出ましょう。ちかんが逃げてしまっても、警察に被害届を提出することができます。

➡ P.22~23 参照